

第16回県西地域活性化推進協議会 結果概要

(R5. 11. 13 16:00~17:15 小田原合同庁舎)

○ 開会

○ 知事あいさつ

黒岩知事

本日は大変お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

県西地域活性化推進協議会をこれから始めさせていただく。新型コロナウイルス感染症が2類から明けて半年が経過した。それぞれ、日常を取り戻して活況を呈しているということで、ほっとしているところ。

県としても今月から、県西地域の各所を巡るデジタルラリーを実施しており、県西地域の更なる活性化を進めたい。

さて、令和3年3月に、県西地域活性化プロジェクトを改定してから、2年半が経過し、年度末で計画期間の終了を迎える。今年3月の本協議会では、今後、引き続き地元が一体となり、さらなる活性化に取り組んでいく必要があることが共通の認識として感じられたため、県西地域活性化プロジェクトについて、改定に向けた作業を進めていくこととなった。

その後、県では、今年の5月から7月にかけて、市町や事業者に対して丁寧にヒアリングを行い、県に対する要望や県西地域にどのような思いを持っているのかを伺った。そして、次期プロジェクトについて、どのような事業を実施していくか、庁内で検討を行い、改定素案について取りまとめたところ。

本日は、その改定素案について、現行プロジェクトからの変更点や、今後実施する予定の事業などを説明し、皆様から率直なご意見をいただきたい。

また本日は、次期プロジェクトで力を入れて取り組むこととしている、移住施策についても、市町の委員の皆様から現在取り組んでいる内容をご報告いただけると聞いており、協議会でそれらの内容を共有し意見交換していきたい。限られた時間であるが、忌憚のない議論をお願いしたい。

○ 議題

(1) 県西地域活性化プロジェクトの改定について

(2) 移住の取組について

市町、事務局から説明※。

(※) 小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、開成町、箱根町、湯河原町及び事務局

○ 意見交換

《議題(1) 県西地域活性化プロジェクトの改定について》

小田原市長

ただいま県西地域活性化プロジェクトの内容についてご説明いただいた。以前からいろいろと調整させていただき、移住促進や子育てへの支援など私たちの意見が盛り込まれたこと、率直に感謝申し上げます。これからも引き続き一緒にやっていければと思う。

2点お話しさせていただきたい。

今回の新規プロジェクトの中にも、次の世代につながる環境の整備や多様な学びの提供がある。各自治体において、移住施策がありながら出生率が低下しており、少子化に歯止めがかかっていないという状況から、学校現場にいろいろな影響が出ていることが大きな課題になっている。本市においても新たな学校づくりということで、いろいろと議論をしているところだが、最近では教育移住という言葉も出てきていて、その地域の教育環境が良いので移住してくるということも全国的には起こっている。是非、ここについても議論が深められればと思う。

また、本市において、この3年間で1,200人を超える社会増があるということ。小田原駅の周りは紹介できる物件が少なくなってきており、今後、駅の近くの小学校は教室が足りなくなりそうな状況である。

一方で、県西地域の交通環境が整っていないエリアで、特にコロナ禍の影響において、バス便が減ったということは、私たちの生活の中で大きな脅威となってきている。本市は今年度、地域公共交通計画を策定中で、おだタク・おだチケという実証事業を始めた。今回の資料には、松田町の「のるーと足柄」なども紹介されているが、こういった取組が非常に重要になってくる。今暮らしている人たちの移動の円滑化に加えて、新たな需要を呼び込むためにも、域内の交通環境を整えていくということは大変重要なポイント。本件についても是非議論を深めたい。

南足柄市長

プロジェクト改定の具体的な内容として、企業誘致や地域医療の実現、子育て世帯への支援、安心して子育てができる施設の整備等があった。

南足柄市でも現在、子育ての関係では、昨年12月に県知事にも来ていただいた子育て支援の拠点施設「にこっと」があり、外遊びの場の整備を今年と来年にかけて実施していく予定。それにより子育て支援拠点として、屋内の拠点と外遊びの場の拠点ができる。

また、来年から企業誘致に係る区画整理事業の工事が始まるが、県西地域活性化プロジェクトをベースにした場合、今後取り組もうとしている事業への支援メニューはあるのか。例えば、令和2年にオープンした道の駅も県西地域活性化プロジェクトの中に位置付けた上で、県からの支援を受けている。

《議題(2) 移住の取組について》

小田原箱根商工会議所会頭

移住について、まずは2点ほど話をする。

まず、移住・定住について、ターゲット、つまりどういう人に来て欲しいのかを明確にする必要がある。例えば、現役世代の人に来てもらうとすれば、働く環境の整備が必要で、子育て世代でもあるため、学校という問題がついてくる。

あるいは、富裕層のシニアの方や外国人など、ターゲットによって施策が異なってくるため、ターゲットを明確にすることは大変重要と考える。

2つ目は、先ほどの説明の中の KPI として県西地域の社会増減数+500 人という数字が出たが、キーワードはデジタル化だと思う。もちろんリアルに移住・定住してもらうのがベストであることは間違いないが、このデジタル社会の中で、必ずしもリアル移住だけではない。例えば、移住はできないが、デジタル市民、デジタル町民や代理で住民票を置けるなど、地域コミュニティができるという意味では、そこに住まなくてもその地域のコミュニティに入って活動してもらうことはできると思う。

そして、私ども商工会の観点からすると、今、中小企業は人材が大変な問題になっている。従前では、こちらに移住し、毎朝8時出勤をしてもらわなければ働けないというのが支障であったが、デジタルの時代では、どこにいても働けるため、外国にいても、この地域の企業で働くことができるようになってくると思う。そういう意味で、優秀な人材を地域の中小企業が獲得していくということが地域の活性化につながるため、このようなデジタルの観点で移住定住というのを幅広く捉えることも必要。

もう1つ別の全体の話をするが、テーマは海。相模湾というかけがえのない自然資源を、まちづくりにどう生かしていくのかという発想が必要。今回の計画ではまだ触れられていないが、例えば観光という観点からすれば、マリンスポーツやプレジャーボートのようなものを指す。インバウンドの人たちが船で直接小田原、箱根に行けるようなこともあるかもしれない。

防災という観点からしても、例えば、陸路がだめだった場合に、海をどう使っていくのか考えられる。教育という観点からすれば、子供たちに海からふるさとを見せるという体験も必要だと思う。

県西地域は、海の施設が大変弱いと思う。三浦や逗子はマリーナがある。大磯辺りは最近整備されたが、小田原は漁港しかなくマリーナもない。一方で、小田原は新幹線という強い武器があり、新幹線が止まるマリーナができたなら、これは世界中見てもないのではないかと。海を上手に生かして、この県西地区の活性化につなげていくのは、大変大きなポテンシャルがあると思う。

真鶴町商工会会長

移住のターゲットという話で、自分の息子の事例を紹介させていただく。

息子は焼津市で野球をやっている、焼津市では7つの企業が集まってクラブチームが作られており、その1期生である。焼津市がこの取組に大変協力的で、練習場所のグラウンド提供などをバックアップしている。例えば、チームの選手が結婚して、子

供ができて、そこに留まる。すると、焼津市の人口が増える。最初のスタートは 20 人ぐらいだったが、現在、現役選手は 30 人以上いる。焼津市はこのような取組で人口が増えている。参考になればと思い、発表した。

黒岩知事

本日は、様々な視点が提示された。県西を活性化するプロジェクトは、コロナという大変な時代では、逆にこれを活用する形で、社会増を実現させるということ。これはそれぞれの市町の工夫ある取組によって形になっているということ。しかし、用心しなければいけないのは、また東京都内へ人口が戻りつつあること。東京都では、巨大なビルの建設など大きなプロジェクトが動いており、東京一極集中の問題があるにも関わらず、更に東京が大きくなっていく現状がある。コロナで社会増となったとはいえ、気を緩めることができないと思う。そのため、移住政策は非常に重要であり、より強化が必要と考える。

その中で、教育移住という面白い視点が提示された。先日、関東地方知事会議が軽井沢であり、長野県の阿部知事が特別な学校を案内してくれた。楽天の創業者である副社長が立ち上げた、ご自分で投資し、作り上げた夢のような学校（軽井沢風越学園）。一見、フリースクールに見えるが、法律に基づいた学校であり、自由闊達に生徒が学習をしていた。その学校に入りたいため、移住者が増えている。教育移住を考えると、軽井沢はライバルであり、そこに負けない気持ちで取り組むということも 1 つあると思う。

また、デジタル化はまさに重要なキーワードだと思う。山古志地域（新潟県の旧山古志村）には、デジタル村民が大勢おり、そこに住んでいないが、地域の活性化に向けて様々な人たちが知恵を絞って頑張っているという取組も視野に入れることが非常に大事だと思う。

そして、海を生かすことも重要な要素だと思う。先日、逗子マリーナで湘南国際芸術祭が行われた。これは、リビエラ株式会社の提言から始まり、神奈川のすべての海をつないで芸術祭をやっていこうという提案。その第 1 回目として逗子マリーナで芸術祭を開催した。非常に著名な彫刻家や美術家が集まるトークショーに参加したが、その際、これは第 1 回目であって、これから各場所で色々な芸術拠点を作り、海から回してつながっていこうという話があった。このような周遊観光、横のつながりは大事なキーワードであり、非常に面白いアイデアであるため、県でもしっかりと取り組んでいきたい。

そういったことも含めながら、県西地域の活性化について、しっかりと目指していきたいと思っており、私は本日、この後、小田原市生涯学習センターでの県民との対話の場で、地域資源に溢れた未病の戦略的エリアの魅力と共に探し、更に発展させる議論を予定している。

本日はどうもありがとうございました。

○ 閉会